

身近な植物（クチナシの実）を使って、ガーゼスカーフかバンダナを染める体験をしました。色は黄色です。

布を染める前の下準備

布を染める前の下準備として、布を水で洗い糊を落とします。そして、牛乳又は豆乳「1」に対して水「1」の割合の液体を作り、その液に染める布を浸して、軽く絞って天日の下で乾くまで干します。この下準備をすることによって染料が布に定着しやすくなるそうです。時間の関係もあり、この作業は、講師が前日にしてくださっており、下準備済みの布（ガーゼスカーフ、バンダナ）を使って染める作業を始めることとなりました。

① 模様をつける

講師が準備した、ビー玉、おはじき、洗濯ばさみ、輪ゴム、割りばしの道具を使って、模様を付ける方法や布を結んだりして模様を付ける方法を講師より実技を交えながら説明していただきました。

それから、染める作業をしていると誰の作品かわからなくなるので、誰の作品かわかるように名前を書いた布を付けました。どんな模様ができるか、想像しながら道具を使って模様を各自で付けていきました。



ビー玉、おはじき、洗濯ばさみ、輪ゴム、割りばし



講師 角田 眞理子さん

② 水に浸す

模様を付けることができたなら、ボールに水をはり、模様を付けた布をしばらく水に浸しました。充分水に浸すことができたなら、布を軽く絞り、広げておきます。



③ 染液に漬ける（約１５分）

今回は、クチナシの実をネット等に入れて鍋で２０～３０分煮て染料を抽出します。煮汁を布でこして染料の完成となります。こちら講師が事前に準備したものをステンレス製の寸胴鍋に入れて再度加熱したものに、先ほど②で布を水に浸し、軽く絞り、広げた布を順次入れていきました。

今回はガーゼスカーフとバンダナを染めるので、先にバンダナを入れて時間を置いてガーゼスカーフを入れました。ガーゼスカーフの方が吸水性が高いので、ガーゼスカーフよりも吸水性の低いバンダナを先に染液に入れないとバンダナの染まり方が和らいでしまうからだそうです。約１５分ほど染液に漬けて鍋の中で布を泳がすようにやさしく菜箸やトングやお玉を使って混ぜ続けました。漬けたままほったらかしにすると染めむら等ができ、失敗してしまうそうです。

１５分経ちましたら、染液から菜箸等を使って取り出し、軽く絞ります。



④ 媒染液（ミョウバン液）につける（約１０分）

染液に漬けて軽く絞った布を媒染液に約１０分つけます。植物の色素を布に定着させるための工程です。この媒染液は水に対して５％～１０％の割合で焼きミョウバンを溶かしたものです。



⑤ 再度染液に漬ける（約１５分）、媒染液に漬ける（約１０分）

③と④の工程を繰り返すことにより、より濃く染めることができます。



⑥ 道具をはずす

（ビー玉、おはじき、輪ゴム、洗濯ばさみ、割りばし、布を結ぶ）模様をつけた、輪ゴムや洗濯ばさみ等の道具を外していきます。

さて、どんな模様になっているのでしょうか？



⑦ 水でよく洗う

流水により布をよく水洗いする。

水洗い出来たら、絞り、布を広げて、乾燥させて完成！！



草木染は天然の植物を利用するので環境にやさしく、自然ならではのやさしい風合いがなんともよいです。今回はクチナシの実を使って染めましたが、玉ねぎの皮、藍、コーヒー、紅茶と身近なものを使って染め物を体験することができるそうです。また、染め直すこともできるので、違った色合いを楽しむこともできそうです。講師も自身で藍染めしたシャツを着用されていました。

早速受講生からは、また草木染の講座をしてほしいとの要望がいくつか挙がっていました。